

# Reha ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第220号

## ななえ古写真物語

VOL.220

### 清水湧く町

日本清酒函館工場

昭和43年

藤城地区



かつて七飯町藤城地区には、日本清酒株式会社の工場があった。現在は更地になってしまったので、その面影はないが、薄緑色の箱型の建物で、壁面上部には筆文字のようなフォントで「千歳鶴」と大きく書かれていた。だから、車で国道5号を北上している度に、否応なくその文字が目飛び込んで来たこともあり、私の中では長らく、「藤城＝千歳鶴」という等式で記憶されていた。

『七飯町史』には、この工場が操業を始めたのは、昭和43年9月で、仕込工場、醸造所、瓶詰工場などを鉄筋コンクリート二階建てで建造し、年に約2,700klを生産していたとされているが、それ以上の情報は記されていない。

上の写真は、その工場の新築工事の様子を撮影したもので、まだ工場らしき建造物がないことや雪が見られないことから、時期は43年の春頃だろうと想像している。また、トタンでつくられた柵の上部には「日本清酒函館工場新築工事」の文字が見られ、その奥には工事事務所と思われるプレハブがあり、道路との境にあるトタン柵にかろうじて、千歳鶴の文字が判読できる。

車が走っている道路が、国道5号であることは、沿道に立ち並ぶ赤松並木からわかるが、歩道がないことに時代の違いを感じる一枚だ。

ところで、経営をしていた日本清酒株式会社については、現在も活躍する企業として知られているので、会社の沿革についてはウェブ上でも調べられる。それによると、明治5年に、石川県能登出身の柴田與次右衛門が、札幌で初めてとなる酒づくりに挑戦し、「柴田酒造店」を開店させたことがはじまりとなっている。その後、明治30年に柴田酒造店を含む7酒造者が「札幌酒造合名会社」を設立、大正13年には「札幌酒造株式会社」へ組織変更し、昭和3年に、ほか7社と企業合同して「日本清酒株式会社」となった。この時に統一銘柄として千歳鶴が誕生したそうだ。

昭和43年に操業をはじめた藤城地区の工場も、残念ながら昭和63年に閉鎖となり、もう酒づくりをしていた面影すらない。

酒づくりには、良質な水は欠かせない。七飯町は、横津岳をはじめとする山々に雨水が蓄えられ、長い年月をかけて濾過された豊富な地下水は、水道水としても利用されている。町内には、七飯駅のあたりに焼酎工場があったことや、同じ藤城地区にワイン工場があること、近年大中山地区に醸造所が造られたことから、七飯町は酒造りに適した良質な水があることがうかがえる。今後も新たな銘酒が生まれることを期待している。

### 5日 夜の博物館後期講座第4夜

「ななえ人物伝」と題しておこなった最後の講座。ゆかりのある人々を紹介しました。イザベラ・バード、堀口亀吉、田中アイ、十倉綱紀。ご存じの名前はあるでしょうか？個人的に強く心に残ったのが、田中アイさん。明治14年に七飯村に生まれ、のちに函館助産婦会を牽引した人物です。息子は昭和のフィクサーと呼ばれた田中清玄氏。職業をもつ女性がまだ生きづらかった時代に、西洋医学にも通じる技術を身につけ、指導者の育成にも尽力しました。時代の先を走り、急いで人生を駆け抜けた一人の女性を尊ぶ時間でした。



### 21日 ジュニア探検クラブ

最後の締めくくり、閉講式を行いました。館長から修了証をもらい、活動の記録写真を見ながら、振り返ります。駒ヶ岳登山や遺跡の発掘体験、りんごを使ったカレーとお菓子作り、石器づくり体験など、悲喜こもごものあった活動でした。子どもたちが発する言葉から、この探検クラブが、大人になって、ふと思い出す一年であったなら、私たちは嬉しく思います。プログラムに悩む、はじまりの春ですが、新たな出会いに思いを寄せる春でもあります。



### 企画展の準備について

開催中の企画展は、さまざまな準備に翻弄されました。展示する資料のリサーチや他館から借りる資料の調整、個人から借りるものの手配、クリーニング作業。なんと言っても会場作りは、レイアウトも含め、力を注ぎます。パネル解説を読む高さ、資料を置く最適な場所、キャプションの細かい表現の推敲、等々。何も無い空間から展示資材を入れ、見て楽しんでもらう空間を作るまで、身体を労りつつお客さまの笑顔に出会う展示になるよう準備をしました。

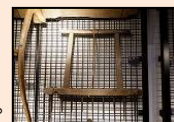


1	金	企画展「GAME」開催中
2	土	
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日
6	水	振替休日
7	木	休館日
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	休館日
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	企画展CLOSE
18	月	休館日
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	休館日
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	ジュニア探検クラブ
31	日	

※休館日：7日、11日、18日、25日

#### 馬 鍬(まんが)

『北海道の民具』ではまぐわと表記されています。水田の代かきを行う畜力の碎土機。土性に応じ、形態は工夫されています。



#### 編集後記 ~tawagoto~

学習サービス室で読書にまつわる言葉を月に一度、紹介している。少しでも読書に親しんでもらえたらと考えた。今月はドストエフスキー。言わずと知れたロシアの作家だ。難解だといわれる作品の作家でも、自らの体験を基に、内側から放つ言葉は、心に響くものが多い。利用するお客さまから、今月の言葉も良いですね。とお声がけされることが有難い。読んで欲しい本を提供するだけではなく、一歩先への道案内を今後も続けていこうと思っている。

# Pichart

~ピチャリ~

第220号

令和8年(2026年)4月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp